

全国女性委員会再編成のためのアンケート結果

- 2021年12月25日までに19地方連盟から寄せられた。
- 47都道府県連盟の中で、女性委員会・女性ネットなどがあるのは、2017年の調査と今回のアンケートから、約37%だと思われる。
- このアンケート結果は、全国理事会及び第35回全国総会の資料集に掲載する。

【アンケート】

1. 全国連盟は、総会・評議会では、今日まで「女性と登山」対策として活動し方針提起を行ってきました。地方連盟ではどのような活動を行っているか、ご意見をお聞かせください。
 - イ) 地方連盟に「女性委員会」「女性部」「女性ネット」などの名称で活動している部署がありますか。
 - ①ある。(この項に○の場合。下記に名称を書いてください)
12 地方連盟 女性ネットワーク委員会
 - ②ない。(この項に○をされた方は、下記にもこたえてください)
7 地方連盟
 - A) これまで、そのような委員会はない。
 - B) 委員会はないが、担当者(男性 女性)はいる。1、
 - C) 以前はあったが、〇〇年前に無くなった。(無くなった理由を下記に記入してください)
 - 1996年県連総会で「婦人部」から廃部を提議され決議された。廃部理由は、①登山内で差別されたことはなく男女を分ける必要がない、②女性も会員として活動していけばいい、③中心となって活動していく会員がいない。他。
 - 20年ぐらい前に、女性委員会でもなくとも……という意見が出始め、又中心になる人が減り、何回かの話し合いの中で女性委員会は廃止となった。
 - ロ) 「女性と登山」関連の委員会等がある場合、どのような活動をしていますか。
 - ①特にない。
 - ②活動の内容下記に記入してください。
 - 山筋体操の企画等
 - 西日本の(交流登山、山筋体操、山での緊急対処法の学習会)などの参加、
 - 女性委員会主催 ワンコイン講習会。山筋体操講習会・転倒しない体づくり・ばてない食事。
 - 女性会員同士の意見等を聞き、山行時の問題点等をみんなで協議している。
 - 交流山行、テーピング講習会、山筋ゴーゴー体操講習会など。
 - 「女性と登山」という言葉付けの関連の委員会はない。単に女性委員会はある。
 - 親睦バスハイク、ロープワーク講習会等技術の向上を(コロナ禍の前)
 - 女性交流山行：各会に呼び掛け、山行と山行後のランチを楽しむ。希望があれば男性も参加している。

- 定例会、山筋ゴーゴー体操の普及、近畿ブロック搬出技術訓練の参加および協力・近畿ブロックでの交流山行、和歌山県での交流山行。
- 「都連盟女性ネットメーリングリスト」への登録を働きかけ交流の場を作る。三つ峠のアツモリソウ保護活動を通じて交流山行の実施。安全登山講習会
- 山筋ゴーゴー体操講習会、登山の基本学習会、交流会
- ①女性のための山登り講座、②山筋ゴーゴー体操出前講座、③山での応急手当出前講座、④県連主催の山での応急手当、⑤近畿ブロック搬出講習会参加および協力

2. 評議会では、「女性委員会」の名称問題について協議していくことになりました。

イ) 「女性と登山」の対策委員会の名称について、一つだけ○を付けてください。

①これまでの「女性委員会」でよい。

13 地方連盟 (この答えのうち、「女性委員会」がない5 地方連盟が、これまででよい、と答えている)

②「女性と登山」対策のための新たな名称に変えたほうが良い。

6 地方連盟 「女性と登山」対策委員会

ロ) ②に○をつけた方は、どのような名称がいいと考えますか。()の中に記入してください。

【記入欄】

- 元々、何を目的に作られたのか分からないので何とも返事しがたい。女性委員会となると女性だけに限定され注視されるのは、いかがなものかと思うところあり。
- 「女性が登山の会」

ハ) 地方連盟では、男性が入れない委員会はおかしいなどという意見も出されて、「女性委員会」などがなくなっているところもあります。新たな名称にした場合、男性も入れて運営したほうが良いと考えますか。一つだけ○をしてください。

①男性も入れるべきだ。 ※10 地方連盟

②女性だけで運営したほうが良い。 ※5 地方連盟

- 始めは女性中心に。そして、男性も入ってもらいな。
- 女性委員会で話し合ったものを上部の理事会・運営委員会で協議するというスタンスでいいのではないかと思います。そこで、男性も含めてご意見をいただければ。
- ・技術の面で男性に協力していただいている。・「女性と登山」についての全国討論集会では、運営の協力を男性の方にさせていただいてきましたが、主催は女性委員会で今後も主催は女性だけで運営していきたい。・山行も内容によって男性の参加希望があれば、参加はよいと思うが、あくまでも主催は女性委員会です。・なぜ、女性委員会の問題に男性が入り新たな名称にして運営をしなければいけないのか、この質問の意味が分からない。・女性委員会を無くすためのアンケートではないのか? ・このアンケートで、男性が女性委員会に入れない委員会はおかしいと思えるのか、女性も含めて話す機会があっても良いが主催は女性委員会です。・女性委員会ができた経緯が解っていないのではないのか? ・なぜ全国女性委員会再編成に、一

年半を過ぎて骨子ができずにいるのか？・2年越しの問題になりこのままでは、来年も収束されないのではないかと不安である。・全国連盟としてもっと話し合う問題はあはずだ。来年の総会では、女性委員会を復帰して報告してほしい。

3. 評議会で「女性と登山」の対策を強化していくことが決定されていますが、どのような対策が必要だと考えますか。あなたの考え方について記入してください。

《記入欄》

- 「女性」というくくりが必要なのか疑問に思うところあり。では、「男性と登山」の対策の強化は何をするのでしょうか？
- 連れて行ってもらい登山から自立した登山することができる教育や経験をすることが必要。ジェンダー平等の意識を登山にも。
- ①全国連盟での、女性委員会の方針・ポジションを明確にする、②全国・地方協議会・地方錬三重の組織形態を統一する。地域や女性委員会の歴史観等による考え方・活動に差があるようです。（例）全国連盟＝関東ブロック＝地方連盟 当り管がない③会員減少、登山j違法の減少等、組織の直面している問題の解決にも取り組む＝委員会のレベルアップが必要だ。
- 女性委員会を無くし男性も入れるのであれば、各山岳団体の現状と同じではないか。女性のための女性たちが企画する山を考える意味を女性委員会があるのだと思う。
- 全国連盟の「女性と登山」に対しての活動情報が地方連盟の担当者のもとまで届いていないので返答できない。徳島県連盟の女性委員会は主として「女性と登山意」に対する技術力アップを目標に発足したので、技術力アップという意味で、個人的には女性委員会は不要と思っています。
- 福島県連の場合、会員数も多くないし、女性の割合も少ない。どちらかと言えば、男性会員に依存しつつ山登りをしていることが多い。自らが主体となって活動をすすめていこうと考える人が増えることを期待しています。まずは県連盟の活動に出てくれる女性を求めています。
- 全国登山会員（男女問わず）に「女性と登山」についてのアンケートをし、まずは現状の課題を把握することから始める。そのうえで対策を協議していく。
- 「女性と登山」を特化しなくても、男性と一緒に登山に関わる技術や考えを高めていければいいと思います。
- 評議会で決定されたとありますが、対策を強化しないと女性は登山をできないのでしょうか？意味が分かりません。もちろん男性に比べて筋力や体力は劣るかもしれませんが、それは年齢と共に男性・女性の関係なく衰えることだと思います。だから山筋ゴーゴー体操も男性も取り組むことになったのだと思います。
- 「女性と登山」の対策の強化……って意味が分かりません。女性委員会の活動の基本テーマは、「生涯登山」、息の長い登山だと思います。女性委員会の50年を振り返っても 時代や社会的な環境の変化とともに女性の問題も変わってきています。今は、自立した登山、事故を起こさない体力づくりに関することだと思います。

- 女性だけのための、と打ち出すのではなく、女性目線で男性のサポートありの組織運営や企画をすることが必要だと思います。
- 女性会員が主体的に活動できる環境を整える。女性だからこそその悩み、課題を交流できるようにしたい。山行のレベル、知識の向上を目指す講習・経験を積んでいく。
- 何故こんなアンケートを出したのか。何が問題になったのか？冒頭に経緯をはっきり出してからアンケートをするべきだ。・なぜ女性委員会ができたのか、まだまだ女性が山を続けていくには、多くの困難がある。男女平等といわれているが、それを克服するために話し合いをする場を設ける必要がある。

4. 携帯トイレの普及は、全ての登山者の問題でもあります。山道具屋などへの相談で多いのが女性の「トイレ問題」だといわれています。どのような対策が必要だと考えますか、また「登山」に関して女性特有の問題はどのようなものがあると考えますか。思っていることに○（複数でもいいです）をしてください。

① トイレに行きたくなったらどうすればいいのか質問されたことがある。

※6 地方連盟

② トイレに行かないように、水分補強を控えている人がいる。

※7 地方連盟

③ 下山するまでおしっこを我慢していたといわれたことがある。

※6 地方連盟

④ 月経・生理について相談されたことがある。

⑤ その他、意見がありましたら下記に記入してください。

《記入欄》

- 生理現象についての相談は、男女限らず同性の方が話しやすい。それを女性委員会という大きな窓口ではなくても各会で相談窓口があることは必要だと思う。
- 携帯トイレは、コースにトイレがない場合、持参は今後常識となるとおもいます。積極的に携帯トイレ持参を…紹介してはどうか（携帯トイレとはどんなものか。どのように利用するのか）。①～⑤はいずれも、全国レベルで取り組む問題ではない。会・地方連盟での活動である。ここから、登山口、コースへのトイレ設置等の要求を取り上げて、署名・請願運動を全国でまとめる。
- ①トイレ問題は、「自然保護委員会」の範囲ではないか。②トイレ問題を女性委員会に押し付けているように思う。また、女性委員会の名称を変えようと考えているようですが、に名称を変えるだけで何のメリットがあるのか？説明がない。なぜ変えないといけないのか？変えなくなつたのか？具体的なことが見えない。まったく理解しがたい。納得のいく言葉がなければ会員へ伝えることができない！③京都女性委員会では講座や山行時等にトイレの件は話をしている。出かける前にすましておくこと、駅やコンビニがあればお借りして済ませること、途中、使用したナプキンやペーパーは持ち帰るように伝えている。④①～④の問題は、聞かれれば答えるが、山行中にほとんど聞かれたことがない。大人であり生理中のことはよく分かっ

ていて、イチイチいわないのではないか。また、男性がいると、余計に言い出しにくいのではないか、とも考える。

- 女性の場合、男性と比べて、ちょっと、その辺でがむつかしい。一緒に行動する男性の理解が必要。何処でもというわけにはいかない場合が多いので、給水パット、紙パンツも携帯トイレ用品ですが、もう少し安価になればと思います。
- 月経等については高齢化のため、近頃は耳にしたことはありません。トイレ等については各自対応です。
- 会や山行パーティではなく、女性同士で相談することで解決している。
- 女性登山者に限定するものではないのですが、自分たちがやって楽しかったこと、勉強になったことを写真や動画等、見える形で発信していく（アウトドアショップ等へのチラシ・ポスター、HPの充実）。山で出会って、興味がありそうな人に（イチカバチカ）会の紹介をする（HP、連絡先などを記した名刺的なものを渡す）。
- このような質問をされたり相談されたことはありません。トイレは女性だけの問題ではないはずです。自然保護の問題だと考えます。本当に山道具屋に相談があるのでしょうか。
- 携帯トイレは、自然保護部から各会に配布したり、見本を提示したりしている。使用紙の持ち帰りは普及していると思う。
- 何故このような質問をするのか分かりません。トイレ等のことは、聞かれれば答えますが、ほとんど聞かれたことはありません。トイレ問題は男女共に関係があると思うので会員全体の問題です。オーバーユースを含め自然保護の問題でもあります。
- 所属会では、入会時のガイダンスや新入会員の研修会で①～④の対応は説明しています。また、山行のリーダー研修会では水分補給の重要性をきちんと組み込んでいます。女性特有という考え方に難があると思います。
- 山道具屋で、どんなトイレ問題を相談しているのかがわからない。・高所でのおむつの話？何の話か理解ができないので具体的に書いて質問してほしい。・山登り講座で話をしている。ティッシュペーパーは持ち帰る。・尿取りパットの利用の説明をしている。・山行前にトイレを済ますように声をかけている（男女関係なく）。・山行中もティッシュペーパーは持ち帰るように話している（以前から言い続けてきた）。・糞については見えないようにする（もちろんティッシュペーパーは持ち帰る。携帯トイレの話も話題になったが実施には至っていない）。※排泄物問題については、男女共に関係があり、自然保護の問題です。自然保護活動として取り組んでください。

5. 次世代を担う若手の女性登山者を会・クラブに入会してもらうための活動について意見をお聞かせください。

《記入欄》

- ホームページで参加を募集したり、山行で出会ったときなどに
- 若い女性の登山に対するニーズを把握すること。世代が違えば要求も違うので、そのうえで対策を考えることが必要ではないでしょうか。

- 女性に限らず、若年層の入会、迎えられる活動に対する組織としての具体的な方針・活動を分かりやすく提起する。労山の魅力、利点、を分かりやすくPRする。組織の若返りが必要。
- 他の山岳会をみると、若い登山者の多くがトレランかクライミングに興味を持っているように思う。
- 所属会のなかで、会員拡大を目的に、女性が中心となって活動を開始した会がある。
- 入会している会員と若い世代の年の差が大きくなるほど、若い世代の入会は難しくなると思います。世代差を広げない対策があればと思います。
- 若い女性がいれば若い男が入るし、若い男がいれば女性が入る。しかし、周りはジジ、ババ、オジサンオバサンだらけ、う～ん。
- 特に男・女と区別することなく、会員が山の楽しさを伝えていくこと。「若手の女性登山者」と限定していること自体に違和感を覚える。
- やはり若い方はホームページを見て入会してくださる傾向にあるので、ホームページの充実を図ることが会員の拡大につながるように思います。
- 若手の女性会員だけでなく、会員の入会については苦勞している。なかなかいい考えが出てこない。
- この問題は男女問わず、今、全国連盟・各地方連盟の一番の課題だと思います。女性委員会だけでなく、全国連盟、各地方連盟、各会、労山会員皆で真剣に検討課題だと思います。最後に、現在男性3人で女性のいない中で運営されている女性委員会は、ありえないと思います。その結果がこのアンケートに表れていると感じます。「女性と登山」にはもっと大事なことがあると思います。このアンケート結果を公表しないのはなぜでしょうか？この結果を踏まえて、検討しないのなら、アンケートに答える意味はないように思います。公開しないのはフェアではありません。大事なことは公開すべきです。労山会員皆の大事な課題ではないでしょうか。
- 全国連盟としての活動でしょうか。会としてでしたらHPの充実だと思いますが、全国連盟としてであれば北・南・中央などアルプス系の縦走、クライミング系などの(男性参加可)企画&実践する部門を設けては。実践のスタッフは男女にとらわれず柔軟に再構築する。講習会のみでは既存の会からの参加に限られ、広がりを見いだせないのと、参加に魅力を感じないのでは。
- 女性が生き生きと活動できる環境だと思います。山行中に出会ったら積極的に声をかけて労山の存在とその活動を宣伝する。スポーツ店、施設などに労山のパンフレットを置いてもらう。
- まずは、男女関係なく若者が労山に入会のためにどのようにしたら良いのか考えるべきである。・女性委員会があることを伝える。・女性が登山を続けるために、男性とは違う身体的問題、社会が取り巻く立場、女性が自立するためになど話し合う。・山登りをしたいので、体作りや遭難事故の対策として訓練や学習、それを伝えていく、広げていくことが大切だ。・楽しく意義のある活動をしていれば自ずと人は集まります。・※結果を公表しなくてどう活用されるのでしょうか？全て公表してください。

以上